



平成25年9月16日に防災操作を行いました

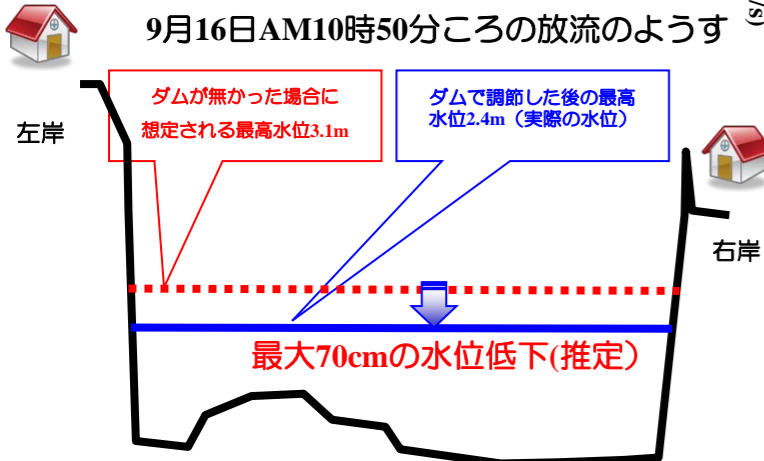
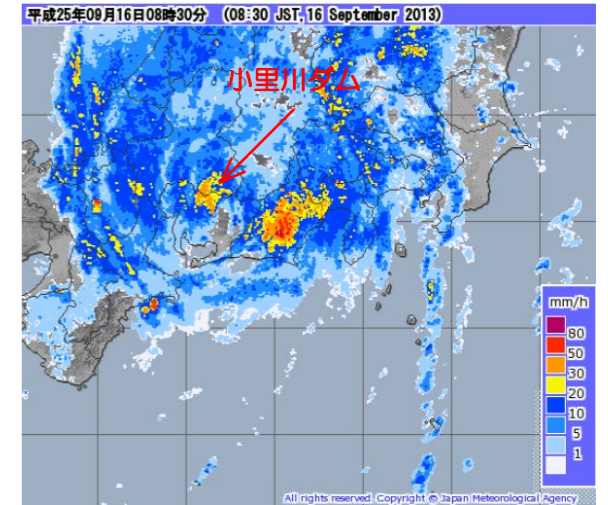
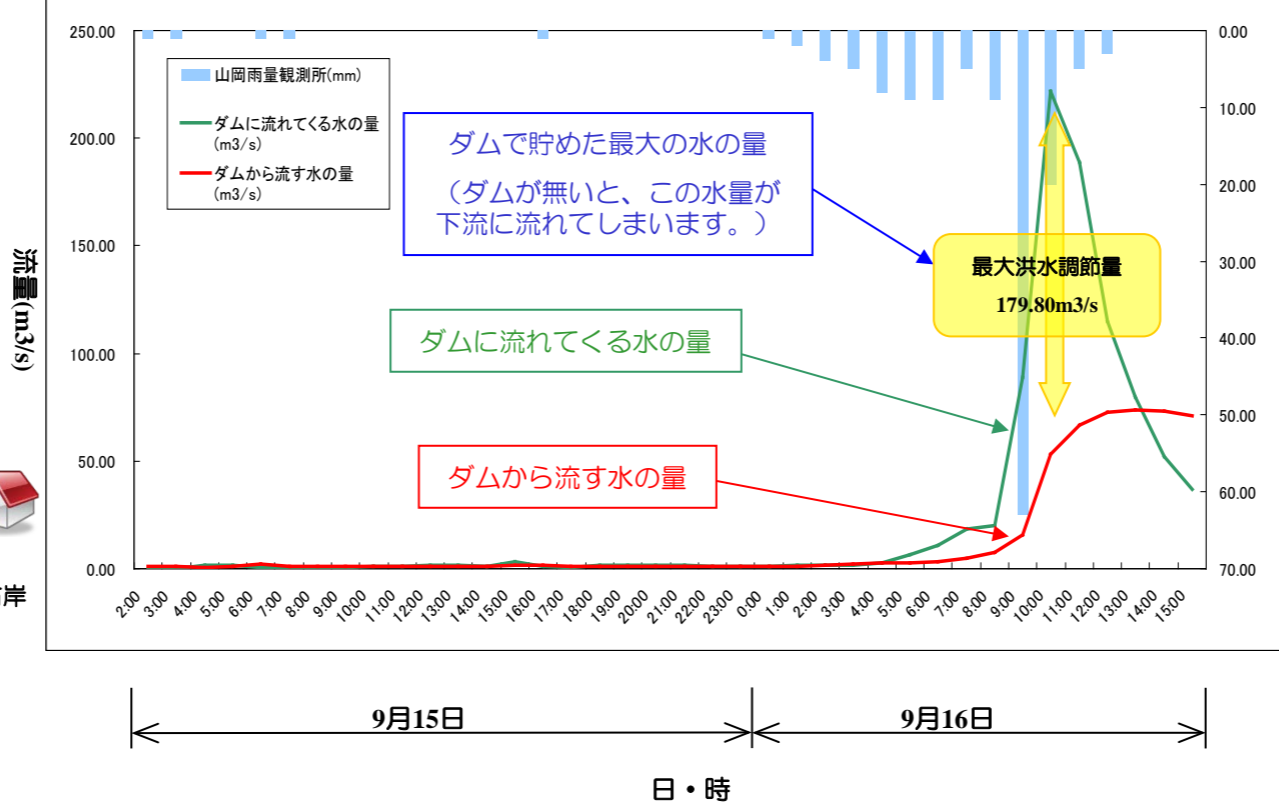
～166万m³の水をダム湖に貯め、洪水を調節し、下流の洪水被害を防ぎました～

平成25年9月15日から16日にかけて台風18号の通過に伴う降雨があり、小里川ダム流域では、15日2時から16日13時までの間に強い降雨がありました。（累計で145.9mm）小里川ダム上流の恵那市山岡町ではこの間に、1時間に63mmの降雨を観測しました。この雨に対し、小里川ダムでは、最大で毎秒179.8m³/sの洪水を調節し、ダム下流の瑞浪市市原地点（国道19号小里川橋付近）で最大70cmの水位を低下できたと推測しています。



9月16日AM10時50分ごろの放流の様子

洪水調節図（速報値）



瑞浪市市原地点の模式断面図

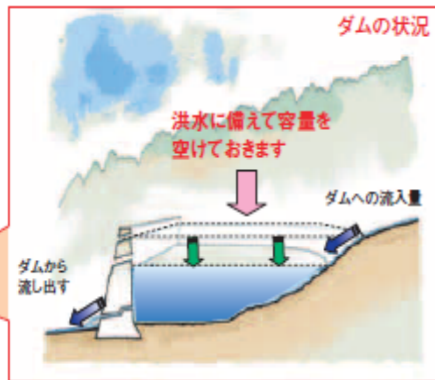


小里川ダム位置図（庄内川流域図）

<ダムによる防災操作(洪水調節)のしくみ>

①洪水に備える

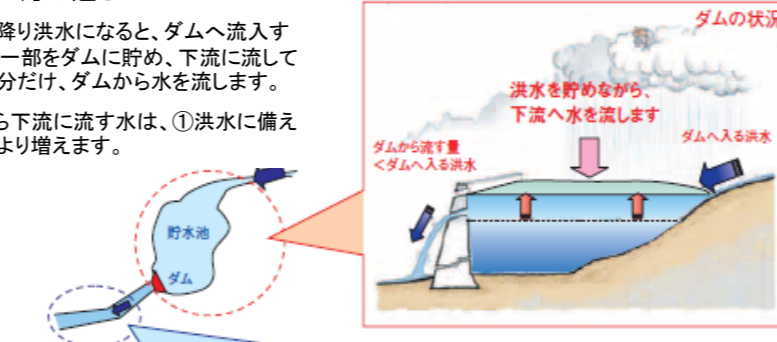
洪水に備えて、台風や大雨による洪水の起きやすい季節には、前もって貯水位を下げて容量を確保しておき、洪水の水をダム貯水池に貯めるための準備をします。



②洪水を貯め込む

大雨が降り洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部をダムに貯め、下流に流しても安全な分だけ、ダムから水を流します。

ダムから下流に流す水は、①洪水に備えている時より増えます。



※数値は全て速報値のため、今後訂正する場合があります。

③計画規模を超える洪水への対応

異常な豪雨により、計画よりも大きい量の洪水がダム貯水池へ流れ込むことがあります。ダムでも精一杯、②のように洪水を貯めつつ下流へ流す操作を行います。ダムに貯めることができる水量には限界があります。

このような場合には、下流に流す量を徐々に増加させ、貯水池に入ってくる水量と同じ量を下流に流すよう(自然河川状態)にします。

